

令和7年度「地域とともにある小中一貫教育」に関する自己評価書（後期）

鬼北町立日吉小・中学校

分野	目的	目標（評価指標）	評価		評価資料の分析	考察及び改善策
			(小)	(中)		
小中一貫教育	義務教育9年間の一貫した指導による教育の質の保証・向上	①乗り入れ授業やICT活用等により、児童生徒の学力の向上を図る。	A	A	ICTの効果的な活用方法を模索しながら授業実践を行っている。個に応じた指導を行いながら、基礎・基本の定着を目指せた。小中共通の目標を表現力の育成とし、様々な取組を行えた。	クミハンの作成やブックトークを行うことで、児童・生徒の表現力が高まってきていると感じる。今後も、様々な発表の場の設定を行いながら表現力の育成を目指す。子供たちの学習の見取りを確実にしながら、個に応じた学習指導を展開し、基礎・基本の定着を目指す。
		②小中合同行事を実施することにより、小中学生の交流の場をつくる。	A	A	計画していた行事は、打合せを十分に言い実施することができた。小中学生が、交流しながら学習を進めることで、思いやりの心が育っている。	今後も活動の意義を考えさせ、活動内容に改善を加えながら、より良い交流ができるようにする。
		③9年間を見通した系統的なカリキュラムによって「郷土学」を実施する。	A	A	地域の方々の協力を得ながら、有意義な学習活動が実施できている。小学校では、お世話になった方々を給食に招き、感謝の気持ちを伝えることができた。	9年間の系統的な「郷土学」の学習を通して、ふるさと日吉の良さをつないでいこうとする心や感謝の気持ちを育てていく。
	学校運営協議会委員の所見	・ICTを活用した授業が増え、個に応じた指導が進んでいると感じる。 ・9年間を通した「郷土学」、教員の乗り入れ授業、小中合同行事の実施は、小中一貫教育の核なので、今後も可能な限り充実した継続を希望する。 ・クミハンの取組から、より深く学ばれ、表現力を高めていると感じた。 ・「郷土学」を中心とし、9年間を通した学びがしっかりとできている。社会にいかせるように努めてほしい。 ・日吉っ子ならではの活動で、ふるさとに誇りを持ち思いやりの心を育てていただいていることに感謝したい。長く存続できることを願う。			学校の対応	・今年度から実施しているクミハンやブックトークなど、改善を加えながらより良い活動となるようにし継続していく。 ・これまでの合同行事のノウハウを継承し、日吉だからこそできる交流学习となるようにする。 ・「郷土学」の年間計画を見直し、修正を加えながら実践を行うことで、児童・生徒のふるさとを誇りに思う心を育てていく。

分野	目的	目標（評価指標）	評価		評価資料の分析	考察及び改善策
			(小)	(中)		
コミュニティ・スクール	地域に開かれ信頼される学校づくり	④学校運営協議会での意見を学校教育に反映する。	A	A	小中学校の連携を図りながら、委員からの意見を参考にし、取り入れられることから実行していくように心掛けている。	今後も、学校運営協議会でいただいた意見を学校教育に反映させ、魅力ある学校づくりを目指す。また、学校運営協議会に、児童生徒の声を反映できるような取組を行う。
		⑤学校教育の実態を把握できるよう、学校運営協議会委員に教育活動を公開する。	A	A	一人一研究発表会や郷土学発表会では、案内を積極的に行い、学校の取組を発信することができた。	今後も、多くの教育活動を公開することで、気軽に参観できる雰囲気づくりに努める。
		⑥教育活動の状況について地域住民に情報提供を行う。	A	A	学校だよりやボランティア通信等の配布や、ホームページの更新を行いながら、情報発信を積極的に行った。	今後も、学校だよりやホームページ、ケーブルテレビ等を活用しながら情報の発信を行い、日吉小・中学校の取組を周知していく。
	学校運営協議会委員の所見	・学校行事や郷土学での取組の様子が、ケーブルテレビ等で多く発信されている。児童、生徒の様子が分かって良い。 ・今回の会議において、広報誌の統合や樹木の伐採、武左衛門太鼓の存続・継承など、具体的かつ切実な課題について協議された。各委員や関係者の思いや考えを取り入れながら検討して行ってほしい。 ・学校運営協議会に、児童・生徒の声を反映できるような取組を楽しみにしている。お互いに向上し合う関係でいたい。 ・情報提供については、町内放送などの活用も検討してほしい。			学校の対応	・児童数や生徒数の減少に伴う様々な課題を、学校運営協議会で報告し、意見をいただきながら、より良い解決策を探っていく。

分野	目的	目標（評価指標）	評価		評価資料の分析	考察及び改善策
			(小)	(中)		
地域 学校 協働 本部	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり	⑦地域ボランティアの方による学校支援活動を実施する。	A	A	総合的な学習の時間、郷土学、生活科などで、見守り隊や放課後子ども教室など、年間を通して多くの方々の協力を得ることができた。	地域コーディネーターと連携し、関係機関等に積極的に働き掛けながら、支援活動の充実と地域人材の発掘に努める。
		⑧学校支援の状況について、地域住民に情報提供を行う。	A	A	ホームページ、学校だよりやボランティア通信、ケーブルテレビ等で地域に情報提供を行うことができた。	工夫や改善を加えながら、様々なメディアを活用し、今後も、情報を素早く正確に提供できるように努める。
		⑨地域コーディネーターが、主体的かつ効果的に活動できるようにする。	A	A	地域コーディネーターと学校行事に関する情報共有を行い、計画的に準備や調整を行うことで、効果的な学習を実施することができた。	計画的に学習が進められるよう、学校行事等について地域コーディネーターと綿密に協議する。そして、効果的な学習ができるように準備する。
	学校運営協議会委員の所見	・地域ボランティアの積極的な支援活動により、充実した活動ができていることに感謝している。地域コーディネーターの活躍も素晴らしい。 ・様々な方に関わっていただいていると感じ、活動の様子を見るのが楽しみになっている。児童や生徒の声も取り上げ、発信するようにしてもらえると、更にリアリティーが感じられる。 ・情報提供については、発信者が思っているほど伝わっていないこともある。精選しながら、発信していくと良いと思う。 ・地域コーディネーターのおかげで、様々な学習ができている。ボランティア通信は、活動の様子を知ることができありがたい。			学校の対応	・地域ボランティアの方々に感謝する気持ちを持たせながら、地域コーディネーターと協力し、充実した学習となるように内容の見直しを行う。 ・情報発信については、実施回数や実施方法について検討し、より多くの方に確実に伝わるようにする。